

「2021年インターネットIR表彰」を発表

大和インベスター・リレーションズ株式会社(東京都中央区 社長:鈴木 潤 以下、「大和IR」)は、上場企業のIRサイトを独自の基準で評価・採点し、特に優秀なIRサイトを構築し、情報開示ならびにコミュニケーション活動で有効に活用している126社を以下の通り、受賞企業として選定いたしました。

2021年評価基準の策定においては、コーポレートガバナンス・コード改訂においてESG情報の開示拡充が求められたことや、取引所の市場再編を控えていること等を考慮し、採点項目の見直しを行いました。

また、近年サステナビリティに対する投資家の注目は一層高まっております。この潮流を受け、2021年インターネットIR表彰では、従来の表彰に加え、「サステナビリティ部門」を新設いたしました。本年は、従来の表彰における受賞企業126社を対象に採点を行い、23社を同部門の受賞企業として選定しております。

なお、コロナ禍の状況を総合的に勘案し、今回も受賞企業に対する表彰式の開催は見送ります。



◆ 2021年インターネットIR 最優秀賞:9社 (※証券コード順)



双日 (2768)
 TIS (3626)
 日本ペイントホールディングス (4612)
 ミネベアミツミ (6479)
 日本電気 (6701)
 伊藤忠商事 (8001)
 加賀電子 (8154)
 MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス (8725)
 ソフトバンク (9434)



◆ 2021年インターネットIR 優秀賞:14社 (※証券コード順)



東急不動産ホールディングス (3289)	三井物産 (8031)
日産化学 (4021)	SOMPOホールディングス (8630)
大日本住友製薬 (4506)	東京海上ホールディングス (8766)
中外製薬 (4519)	日本電信電話 (9432)
コニカミノルタ (4902)	KDDI (9433)
荏原製作所 (6361)	カプコン (9697)
日産車体 (7222)	ベネッセホールディングス (9783)



◆ 2021年インターネットIR 優良賞:103社 (※証券コード順)



INPEX (1605)
大和ハウス工業 (1925)
日揮ホールディングス (1963)
パーソルホールディングス (2181)
アサヒグループホールディングス (2502)
麒麟ホールディングス (2503)
味の素 (2802)
カゴメ (2811)
ニチレイ (2871)
ヒューリック (3003)
J. フロント リテイリング (3086)
三越伊勢丹ホールディングス (3099)
東洋紡 (3101)
マーケットエンタープライズ (3135)
TOKAIホールディングス (3167)
野村不動産ホールディングス (3231)
セブン&アイ・ホールディングス (3382)
帝人 (3401)
東レ (3402)
クラレ (3405)
ブロードリーフ (3673)
昭和電工 (4004)
住友化学 (4005)
トクヤマ (4043)
三菱ガス化学 (4182)
三井化学 (4183)
三菱ケミカルホールディングス (4188)
積水化学工業 (4204)
日本新薬 (4516)
DIC (4631)
オリエンタルランド (4661)
パーク24 (4666)
クレスコ (4674)
伊藤忠テクノソリューションズ (4739)
サイバーエージェント (4751)
富士フイルムホールディングス (4901)
資生堂 (4911)
ENEOSホールディングス (5020)
AGC (5201)
日本板硝子 (5202)
日本製鉄 (5401)
ジェイ エフ イー ホールディングス (5411)
三菱マテリアル (5711)
住友金属鉱山 (5713)
UACJ (5741)
三和ホールディングス (5929)
テクノプロ・ホールディングス (6028)
ナブテスコ (6268)
日立建機 (6305)
栗田工業 (6370)
セガサミーホールディングス (6460)
日立製作所 (6501)
東芝 (6502)
富士電機 (6504)
安川電機 (6506)
日総工産 (6569)
JVCケンウッド (6632)
オムロン (6645)
ジーエス・ユアサ コーポレーション (6674)
OKI (6703)
セイコーエプソン (6724)
TDK (6762)
日本光電 (6849)
アドバンテスト (6857)
シスメックス (6869)
太陽誘電 (6976)
村田製作所 (6981)
三菱重工業 (7011)
コプロ・ホールディングス (7059)
ゆうちょ銀行 (7182)
曙ブレーキ工業 (7238)
ヤマハ発動機 (7272)
ニコン (7731)
オリンパス (7733)
タムロン (7740)
リコー (7752)
ヤマハ (7951)
リンテック (7966)
丸紅 (8002)
豊田通商 (8015)
東京エレクトロン (8035)
住友商事 (8053)
丸井グループ (8252)
あおぞら銀行 (8304)
三菱UFJフィナンシャル・グループ (8306)
りそなホールディングス (8308)
三井住友トラスト・ホールディングス (8309)
三井住友フィナンシャルグループ (8316)
みずほフィナンシャルグループ (8411)
アコム (8572)
オリックス (8591)
野村ホールディングス (8604)
第一生命ホールディングス (8750)
T&Dホールディングス (8795)
レオパレス21 (8848)
日本通運 (9062)
日立物流 (9086)
日本郵船 (9101)
川崎汽船 (9107)
SGホールディングス (9143)
東京ガス (9531)
ファーストリテイリング (9983)
ソフトバンクグループ (9984)

*すべて株式会社表記を省略しております。

*株式会社大和証券グループ本社は選考から除外しております。



◆ 2021年インターネットIR サステナビリティ部門



最優秀賞:7社 (※証券コード順)

三井化学 (4183)
大日本住友製薬 (4506)
コニカミノルタ (4902)
日本電気 (6701)
伊藤忠商事 (8001)
三井物産 (8031)
日本電信電話 (9432)



◆ 2021年インターネットIR サステナビリティ部門



優秀賞:16社 (※証券コード順)

アサヒグループホールディングス (2502)
麒麟ホールディングス (2503)
双日 (2768)
東レ (3402)
昭和電工 (4004)
住友化学 (4005)
日産化学 (4021)
中外製薬 (4519)

DIC (4631)
ENEOSホールディングス (5020)
ジェイ エフ イー ホールディングス (5411)
荏原製作所 (6361)
セイコーエプソン (6724)
ゆうちょ銀行 (7182)
ヤマハ (7951)
第一生命ホールディングス (8750)

* 今回のサステナビリティ部門では「優良賞」を設けておりません。

* すべて株式会社表記を省略しております。

* 株式会社大和証券グループ本社は選考から除外しております。

(ご参考) 2021年「インターネットIR表彰」の概要

企業IRはインターネットに包摂されるという『5T&C』*の考え方のもと、上場企業のホームページを調査・評価しています。審査・選定にあたり、青山学院大学名誉教授・東京都立大学特任教授の北川哲雄氏にご監修いただいております。

*Timely(適時性)、Transparent(透明性)、Traceable(追跡可能性)、Trustworthy(信頼性)、Total(包括性)+Communication(双方向性)

◆審査過程 <審査期間:2021年6月1日~10月31日>

■ 一次審査

6/1時点の上場企業3,944社を対象に、インターネットIRにおいて基本となる下記項目について審査しました。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 適時開示情報の掲載状況 | ⑥ サステナビリティ方針 |
| ② 決算短信の掲載状況 | ⑦ コーポレート・ガバナンス |
| ③ 有価証券報告書の掲載状況 | ⑧ 外国語サイトの設置 |
| ④ 任意刊行物の掲載状況 | ⑨ お問い合わせ先の表示 |
| ⑤ プレゼンテーション資料の掲載状況 | |

■ 二次審査

一次審査を通過した1,256社の日本語版IRサイトについて、定量的評価基準である大和IRスコアボード(日本語版)に基づいて詳細に評価しました。

【大和IRスコアボード(日本語版)の大項目】

① トップページ	トップページがサイト内の情報へ投資家を適切にナビゲートできているか。
② コーポレートプロフィール	自社のビジネスモデル、強み、業界環境などを説明しているか。
③ 経営方針・計画	IRに対する基本的な考え方、方針、体制等ならびに事業計画や経営戦略が説明されているか。
④ サステナビリティ	法制度やトレンドを意識し、対話に必要なESG情報を提供できているか。
⑤ 株式・株価情報	株式情報、株主還元情報など投資に必要な情報を提供できているか。
⑥ 財務データ	主要な財務情報の掲載や財務データなどを投資家の立場に立った内容及び方法で提供しているか。
⑦ IRライブラリー	IRに関連する資料が、十分な種類、量、アーカイブで提供されているか。
⑧ プレゼンテーション	すべての投資家に公平な情報伝達を図るべく、IRイベントに関する情報を十分に掲載しているか。
⑨ サイト使用時の留意事項	投資家が利用するにあたって、IRサイトとしての必要な注意がなされているか。
⑩ コンタクト	投資家とのコミュニケーションを図るため、双方向性を意識したサイト運営がなされているか。
⑪ ユーザビリティ	ユーザビリティの向上が図られているか。
⑫ ICT利活用	IT技術及び新たなデバイスへの対応ができているか。

■ 最終審査(英文審査)

日本語版の評価点が65点以上の273社の英語版IRサイトについて、日本語版と同様に開示すべき共通項目に下記の英語版独自評価項目を加え、詳細な評価を実施しました。この英語版の評価点と二次審査における日本語版の評価点を日本語版:英語版=5:5の比率で統合し、総合評価点を算定しました。

【英語版独自評価項目の主なポイント】

- ① 英文のクオリティ
- ② 日本語と英語の開示情報量の公平性
- ③ 日本語と英語の開示タイミングの公平性

なお、英文のクオリティに関する審査においては、ジ・アイアール・コーポレーション株式会社(東京都港区)にご協力いただいております。

◆受賞企業選定基準と選定方法

- ◎ 総合評価点が90点以上の企業を「最優秀賞」候補として選定。
- ◎ 総合評価点が85点以上の企業を「優秀賞」候補として選定。
- ◎ 総合評価点が70点以上の企業を「優良賞」候補として選定。

上記総合評価点をベースにインターネットIR表彰選定委員会にて表彰企業を選定しております。

■ サステナビリティ部門

今回は、優良賞以上を獲得した 126 社を対象に採点を実施しました。

【サステナビリティ部門の大項目】

① トップページ	トップページがサイト内の情報へ投資家を適切にナビゲートできているか。
② 全体方針	サステナビリティに関する基本的な考え方、方針、体制等、ならびに重要課題が説明されているか。
③ 環境	気候変動等の環境に対する社会課題への考え方、方針、体制、定量的なデータ等が説明されているか。
④ 社会	各ステークホルダーに対する社会課題への考え方、方針、体制、定量的なデータ等が説明されているか。
⑤ ガバナンス	コーポレート・ガバナンスに対する社会課題への考え方、方針、体制、定量的なデータ等が説明されているか。
⑥ サポート	企業のサステナビリティに対するサポート情報として、各種資料やイニシアチブ等が説明されているか。

◆サステナビリティ部門の受賞企業選定基準と選定方法

- ◎ 総合評価点が 85 点以上の企業を「最優秀賞」候補として選定。
- ◎ 総合評価点が 80 点以上の企業を「優秀賞」候補として選定。

上記総合評価点をベースにインターネットIR表彰選定委員会にて表彰企業を選定しております。

○ 北川哲雄氏 略歴

青山学院大学名誉教授・東京都立大学特任教授

- ◆ 早稲田大学商学部卒業、同大学院修士を経て、中央大学大学院博士課程修了（経済学博士）。
- ◆ 1981 年以來、野村総合研究所、モルガン銀行（現 JPモルガンアセットマネジメント）等でリサーチャー、アナリスト、調査部長に従事した後、2005 年より青山学院大学教授、2019 年より現職。
- ◆ 専門は「コーポレート・コミュニケーション」「コーポレート・ガバナンス」「ファイナンシャル・レポーティング」。
- ◆ 現在の主な社会的活動として環境省『ESGファイナンスアワードジャパン』審査委員長、経済産業省『非財務情報の開示指針研究会』座長、一般社団法人『ESG情報開示研究会』代表理事を務める。
- ◆ 最近（2019 年以降）の論文・著書・監訳として
 - ① 「ESG投資の隆盛化とサステナビリティ・ブルー」（運輸と経済）2021 年
 - ② 「ESGカオスの中で企業は如何に情報開示を進めるべきか」（日経研月報）2021 年
 - ③ 『コーポレートガバナンス・コードの実践 再改訂版』（分担執筆、武井一浩他、日経 BP 社）2021 年
 - ④ 『社会を変えるインパクト投資』（監訳：ベロニカ・ビッチ他著、同文館出版）2021 年
 - ⑤ 『バックキャスト思考とSDGs/ESG投資』（編著、同文館出版）2019 年
 がある

○ ジェ・アイアール・コーポレーション株式会社概要

- ◆ 1980 年 2 月設立。40 年以上のIR支援の知見と経験を発揮し、統合報告書に不可欠な、きめ細かなお客さまサポートを社内一貫制作体制で実現。
- ◆ 冊子・Webの制作工程すべてを社内で行う一貫制作体制を活かし、お客さまのリモートワークをIRCがハブとなり、完全サポート。
- ◆ とくにネイティブスタッフ（正社員）で構成されるライティング・エディティング セクションによる、質の高い英文作成、校閲、校正に定評。
- ◆ 東証一部上場企業を中心におよそ 450 社、制作したアニュアル レポートの数は 2,200 冊以上にのぼる豊富な実績。
- ◆ 日経アニュアルレポートアワード、WICIジャパン統合報告優良企業賞で受賞歴多数。

大和IRは、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループのネットワークを活かし、上場企業・上場予定企業のIRを総合的にサポートしています

以上

【お問い合わせ先】大和インベスター・リレーションズ株式会社

インターネットIR 事務局 堂下（電話：03-5555-4111 E-mail: biz_dev@daiwair.co.jp）